

## 第1学年 道徳科指導展開例

- 1 主題名           よりよい生き方
- 2 内容項目       Dーよりよく生きる喜び
- 3 教材名           心の弱さを乗り越えるために「銀色のシャープペンシル」
- 4 ねらい（視点）

### (1)価値観

人は、誰でも、自分に自信がもてなかったり、状況に流されて安易な行動をしてしまったり、その場を取り繕うために思わずそをついてしまったりすることがある。しかし、そのことをよしとせず、よりよく生きたいと思う強さをもっている。よりよく生きる喜びは、自己満足ではなく、他者とともに生きていこうという深い人間愛に根ざしたものである。ありのままの自分自身を見つめ、その弱さを乗り越えていく主人公「ぼく」の様子と自分を重ねながら(自我関与)、よりよく生きる喜びを考えさせたい。

指導に当たっては、まず、自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。本教材の主人公も自分を正当化するために嘘をつかざるを得なくなっているが、主人公自身が自分の中にある弱さや醜さから目をそらすことなく、揺れ動きながらも弱さを克服し、自分を奮い立たせている。主人公の目指す生き方や誇りある生き方に近づいていく姿に目を向けさせることを通して、目指す生き方に近づこうとする実践意欲と態度を育てたい。

### (2)生徒観

中学生の時期は、自分の行動の意味や結果を深く考えられず、安易な振る舞いをしがちです。しかしその一方で、自律的に考えたり、理想に自分を近づけたいと思ったりする時期でもある。その中で、虚勢を張ったり、劣等感を覚えたり、自信をなくしたりもする。

そのため、本資料を通じて、単に友人である卓也に対して謝る、謝らないといった正直さに留まるのではなく、人間には弱さや醜さを克服するための強さや気高さがあり、自信をもって自分に恥じない生き方を見出していこうとする態度について深く考えさせたい。

### (3)教材観

本教材は、落ちていた銀色のシャープペンシルを自分のものにしてしまった主人公の「ぼく」。ある時、友達卓也に「そのシャープ、ぼくのじゃ…」と言われて、「ぼく」はとっさに自分で買ったと嘘をついてしまいます。事態の発覚を恐れて、誰もいない教室で、卓也のロッカーにシャープペンシルを返しておいた「ぼく」。卓也から「君のことを疑ってごめん」という謝罪の電話を受け、家を出てオリオン座の瞬く夜道を卓也の家に向かう様子が描かれている。

本授業では、主人公が卓也からの電話を受けた後、葛藤しながらも、最終的には心の弱さに打ち勝ち、自分に恥じない生き方を目指す主人公への自我関与を通して、よりよく生きること(良心)の大切さについて深く考えさせたい。

5 本時の展開

	発問と児童生徒の活動	◎評価・○留意点
導入	<p>○今まで、自分に責任があるのに、「ぼく(私)じゃない」と言ってしまったことがありますか。その時、どんな気持ちでしたか。 【自己理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある…掃除の時おしゃべりをしていて、先生に注意された時、友達が悪いと言ってしまった。</li> <li>・気持ち…正直に言えなくてごめんなさいという気持ち。 …やっぱり人間には弱い部分があるから、うそをついてしまう。</li> </ul>	<p>○道徳的価値の自覚に向けての動機付けを図る。</p>
展開	<p><b>【卓也からの謝罪の言葉を聞き、葛藤しながらも自分の弱さに向き合う場面】</b></p> <p>○卓也が電話で謝ってきたとき、自分ならば、本当のことを言いますか。それとも、黙っていますか。 【他者理解】</p> <p>◆本当のことを言う【良心】</p> <p>■例 ・卓也をだまして申し訳ないから。 ・自分が恥ずかしい。卓也とは心の広さが違う。</p> <p>◇黙っている【自分の弱さ】</p> <p>■例 ・都合がいい。黙っていよう ・本当のことを言ったら、卓也やまわりのみんなからどう思われるか怖いから。</p> <p><b>【自分の弱さに気づき、弱さを打ち破ろうとする場面】</b></p> <p>◎卓也の家へ歩き出した「ぼく」は、どんなことを考えていたのだろうか。 【価値理解・中心発問】</p> <p>(本時のねらい)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を守ることしか考えていなかった(自分の弱さや醜さへの気づき)。</li> <li>・自分は嘘つきだ。自分に恥ずかしい(自分の弱さや醜さへの気づき)。</li> <li>・自分のしてきたことを素直に謝ろう(自分の弱さや醜さの克服)。</li> <li>・卓也を見習って、正直に生きたい(自分に恥じない生き方)。</li> </ul> <p>○【問い返し】 卓也は「ぼく」がシャープペンシルをとったことは知らないのだから、このまま黙っていてもいいのでは… 【他者理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謝らないとこれまで通り、卓也と付き合えない。</li> <li>・自分の嘘と決別したい。弱い自分に勝ちたい。</li> </ul> <p>○すべての星が自分に向かって光を発しているように感じたのはなぜだろう。 【他者理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心のもやもやがすっきりした気持ち。</li> <li>・自分の弱さに打ち勝った晴れ晴れした気持ち。</li> <li>・自分への励ましのように感じたから(これから頑張れ)。</li> </ul>	<p>○「主人公」の立場になり、議論することで、多面的な視点をもてるよう促す。【選択的な思考】</p> <p>○「ぼく」が葛藤している場面から、決意を込めた確かな足取りへと変化していること(良心の目覚め)について、多様な考え方・感じ方(多面的な思考)を引き出し話し合わせることで、道徳的価値理解を深めさせたい。【解析的な思考】</p> <p>◎道徳的価値の大切さや実現の難しさについての考えを深めている。 【ワークシート・発表】</p> <p>○中心発問では「主人公が謝りにいく」という反応が予想される。そのため、問い返しの発問をすることで、主人公の目指す生き方に気づかせたい。</p> <p>○よりよく生きる喜びを見いだすことにつなげたい。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業の感想を振り返りシートに記入する。</li> </ul>	<p>○ねらいの根底にある道徳的価値の対する思いや考えをまとめることで、自分の感じ方や考え方などの自覚を深めさせたい。 (資料「私たちの道徳」P120を通読する)</p>